

2020年 か ぜ ひ か

風光れ

人権のたより 第28号 11月11日発行

三重県立津東高等学校

絵の中にある2種類の生き物を答えよ！



こんにちは、人権担当の川邊広美です。今回は「ものの見方」について考えてみましょう。この絵は何に見えますか？1年生は現代文の授業で「コインは円形か」という評論をしました。ものの見方は、すべてを見ているわけではないのです。だから自分の視野を広げるために別の視点に立つてみることです。すると、「カエル」と「馬」が見えてくるでしょう。この瞬間にあなた自身は、変わったといえるのです。

少し話がずれるかもしれませんが、読んでみてください。

「小学校4年生の女子が、クラスの男子からいつも背が低いことからかわられていました。腹を立てた女子は、担任に言ってそのまま早退しました。『もうこうなったのは、母のせいだ。母親に言ってやる!』を関に入って、『ただいま』も言わず、ランドセルを放り出しました。するとキッチンの方から、にこやかな話し声が聞こえてきました。食卓テーブルを囲んで、母と祖母が親子でせんべいを食べていました。『もう2度と学校なんか・・・なのにニコニコして人の気も知らないで・・・』黙ってダイニングに行くと、普段見もしないテーブルの下に目がとまったのです。何かぶらぶらしているのです。『えっ、母親の足がぶらぶら床に着いてない・・・それにおばあちゃんの足も着いてないんや。なんや2人とも背が低いんや・・・なのに母親のせいにしようとしていた。なんやそうなんや・・・』この子は元気に次の日も学校へ行きました。男子のからかいもどこ吹く風で聞き流していました。自分ではどうすることもできないことで腹を立てていたことが、祖母から母へ母から自分に受け継がれていることに喜びを感じたのでしょうか。



物の見方が違うというだけで、感じ方に違いが出てきて、さらには、その後の行動にも違いが出てくるんです。少しずつ変えていきましょう。まずは言葉からです。

○「努力する、がんばる」を「工夫する」と言い換える

「努力する」や「がんばる」って、日本人の好きな言葉ですよ。学校や会社で、この言葉を使っている人は、たくさんいます。でも、「努力する」や「がんばる」と言っても、具体的に何をどうするのかということが分かりにくいとは思いませんか？

そこで、この「努力する」や「がんばる」という言葉を、「工夫する」と言うふうに言い換えます。「努力する」や「がんばる」という言葉は、精神論的な言葉ですが、「工夫する」という言葉は、自分の頭で考えて合理的にやるという意味が込められています。

伝統とは、先人たちの創意工夫の積み重ねでできていますよね。積極的に「工夫する」という言葉を使いましょう。

○「失敗した」を「経験した」と言い換える

失敗は、誰にでもあるもの。失敗をしたりすると、誰だってへこんでしまいますよね。でも、この「失敗」も、言い換え一つで大きく変わりますよ。

「失敗」という言葉には、大いにマイナスの意味が込められています。これを「経験」という言葉に言い換えましょう。「経験」は、たくさんあればある程いいものですよね。「経験豊富な人」というと、頼りがいのある人に一変します。

失敗してしまった時の精神的なダメージも、貴重な経験を積んだんだととらえることで、かなり軽減されるでしょう。失敗というネガティブなイメージにとらわれるのではなく、経験というポジティブなイメージでとらえることが大切です。

どうしても行き詰ってしまっていると感じるときには、「押してダメなら、引いてみる」です。自分が見ていないもう一方の面にも目を向けてみることで、自分の生き方も大きく変わってきます。